

C-46 Pattern Gradingに関する研究—Grading手法の比較検討—
武庫川女大家政 林 泰子 ○松岡育代

目的 今日の社会において既製服は我々の衣生活にとって上着類、下着類ともにその利用率は極めて高い現状である。しかしその既製服は消費者が必ずしも満足し得るものばかりではなくその原因についてはいろいろあるが、その中でも特にサイズや型について問題のあるところから、今回は既製衣料の製産工程のうちのPattern Gradingの手法について比較検討を試みた。

方法 現在Grading作業はコンピューターによって機械的に行われる場合と経験の深いグレーダーによって手動的に行われる場合とがあるが、いずれの場合でもその基礎となる操作方法について今回は4方式の手法を用いて作図および試作を行い、それぞれ出来上がった型について比較検討を行った。

結果 いずれの方法で操作をしても基本の型に対してほい相似的にグレードされるため人体がサイズ差に伴って相似的でないことから適合度に問題が残る。また袖ぐり線などの曲線部分では服種や地質に対して適当ないセ＝ミ量とするには修正が必要であることが判った。